

WTO非公式閣僚会合(スイス・ダボス)
(結果概要)

平成 28 年 1 月 23 日
経済局国際貿易課

1月23日(土)、スイス・ダボス市内のシュバイツァーホフ・ホテルにおいて、スイス主催WTO非公式閣僚会合が開催されたところ、概要以下のとおり。

1 出席者(22 国・地域及びWTO事務局から出席)

- ・スイス(議長):フライシュ対外経済長官
- ・WTO:アゼベド事務局長及びデ・マテオ一般理事会議長(在寿府墨大使)
- ・我が国:濱地外務大臣政務官, 佐藤農水大臣政務官及び星野経産大臣政務官
- ・米国:フロマン通商代表
- ・EU:マルムストローム貿易担当欧州委員
- ・カナダ:フリーランド国際貿易大臣
- ・豪州:ロブ貿易・投資大臣
- ・上記の他, アルゼンチン, ブラジル, 中国, コスタリカ, 香港, インドネシア, ケニア, 韓国, レソト, メキシコ, ノルウェー, パキスタン, ロシア, 南アフリカ, タイ, トルコが出席。

2 議論の概要

- (1) 今後のWTO交渉のあり方につき、昨年12月の第10回WTO閣僚会議(MC10)を踏まえ議論が行われた。全体として前向きな論調が大勢を占め、よい雰囲気で議論がなされた。

【ナイロビ(MC10)の評価】

- (2) 多くの国が、ドーハ・ラウンドの枠組みを使うか否かについては合意ができなかったものの、MC10は農業の輸出競争分野やITAを含む合意が得られる等大成功であり、WTOの交渉機能は「活きている」と高く評価。このモメンタムを失ってはならないとの認識を共有。

【今後の交渉の進め方】

- (3) 途上国を含め多くの国が、従来からの課題に加えて、新たな課題や新たなアプローチの検討の重要性を指摘。新たな課題については、少なくとも「議論を進めることには認識の共有があり、多くの国から様々な具体的分野の提案があった。他方、議論のタイミングやスピードについては、早急に具体化したいとする国(中国、韓国)もあったが、多くの国が時間をかけた慎重な議論も必要としたところ、我が国から述べた「ゆっくり急げ(make haste slowly)」の精神の重要性に支持も示された(米、加)。
- (4) アゼベド事務局長は、ドーハ・ラウンドの残された課題も、新たな 이슈もいずれも進める必要がある。本日の前向きな雰囲気をジュネーブでの議論につなげたい、各国と議論し、建設的に進めたいと述べた。また、MC10及びMC9(於バリ)で出した成果の着実な実施がWTOの信頼性維持のために極めて重要と発言。
- (5) 我が国からは、ポイント以下のとおり発言した。
- ・濱地外務大臣政務官:今後のWTO交渉は、ドーハの残された課題も重要だが、時代に即した新たな課題への対応を含め、交渉機能を再活性・強化するべく新しいアプローチを検討すべき。「ゆっくり急げ」の精神が大切。
 - ・星野経産大臣政務官:ITA拡大妥結はプल्ली交渉が有効なアプローチであることの証左。今後もプल्लीを積極的に活用すべき。産業界のニーズに即した新たな課題の検討が必要。
 - ・佐藤農水大臣政務官:MC10にて農業の輸出競争分野を含む合意が得られたことは有意義。今後も各国が現実的になるとともに、バランスのとれた成果を目指すべき。

(了)